

## [ 概要 ]

本研究は富山県を対象にして、小中高等学校の校歌に歌われる地域環境を明らかにすることが研究目的である。そのために①校歌に歌われる環境要素の整理②環境要素の地理的分布とその環境要素を歌う学校との位置関係の分析を行った。その結果、富山県の校歌に含まれる環境要素は山、河川、海の順で多く、富山県の豊かな自然が反映される結果となった。山は、立山が最も多く歌われていた。山は基本的にその山が可視可能な学校で歌われるが、立山は可視領域全域で歌われる一方、立山以外の山は山から近い距離に位置する学校でしか歌われなかった。立山は富山県で最も有名な山であり、数々の立山教育が県内でなされているため、立山は優先的に歌われると考えられる。河川は、富山5大河川が最も多く歌われていた。河川は基本的に河川流域の学校でのみ歌われるが、流路の変更が頻繁に起きた河川や、流路が広がった河川は、河川から距離が遠い学校でもその河川を歌い、そのような自然の力が働かない穏やかな河川では近い距離で歌われる傾向があると考えられる。海は、現実には存在しない有磯海などの歌枕が多く歌われていた。歌枕が多く歌われるのは富山県ならではの傾向であるといえる。海は基本的に富山湾に近い学校で歌われるが、作詞者の富山湾に対する捉え方によって、有磯海や奈呉の浦など異なった表現で歌われると考えられる。